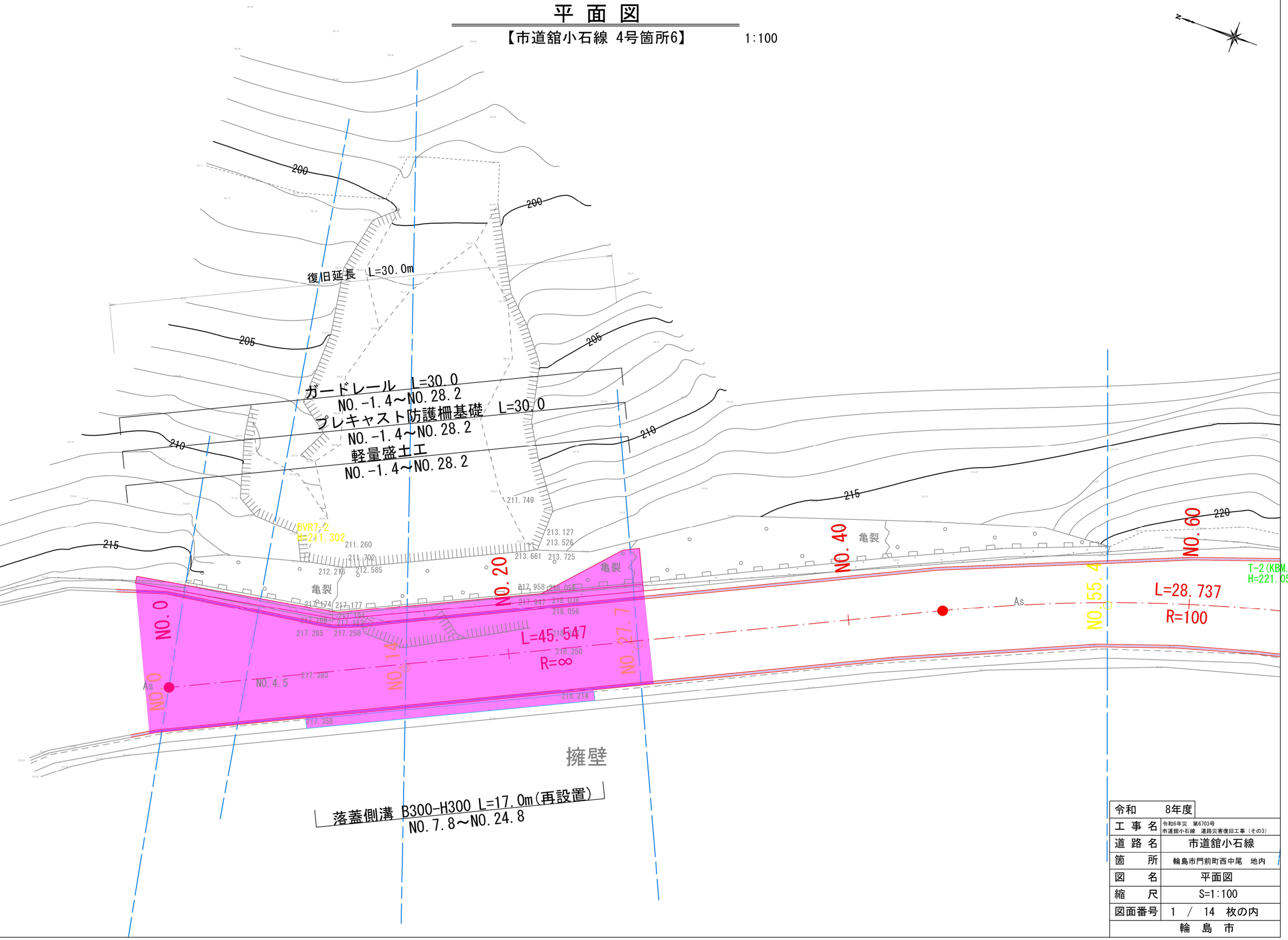
平 面 図

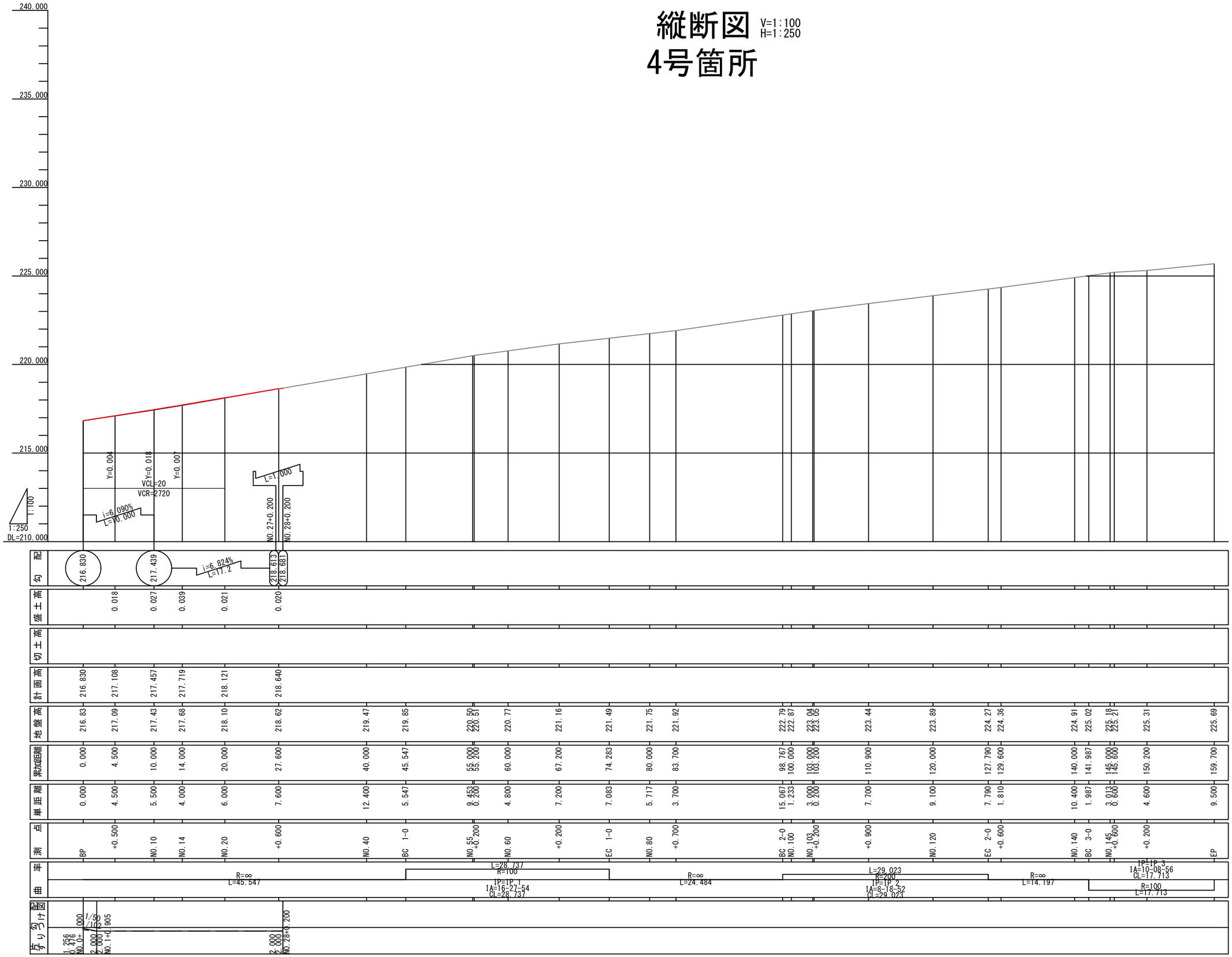
【市道舘小石線 4号箇所6】　　1:100



令和	8年度
工事名	令和6年災　第6703号 市道舘小石線　道路災害復旧工事（その3）
道路名	市道舘小石線
箇所	輪島市門前町西中尾　地内
図名	平面図
縮尺	S=1:100
図面番号	1 ／ 14 枚の内
輪島市	

縦断図 V=1:100 H=1:250

4号箇所



令和	8年度
工事名	令和6年災　第6703号 市道舘小石線　道路災害復旧工事（その3）
道路名	市道舘小石線
箇所	輪島市門前町西中尾　地内
図名	縦断図
縮尺	V=1:100, H=1:250
図面番号	2 / 14 枚の内
輪島市	

標 準 横 断 図

【市道舘小石線 4号箇所6】

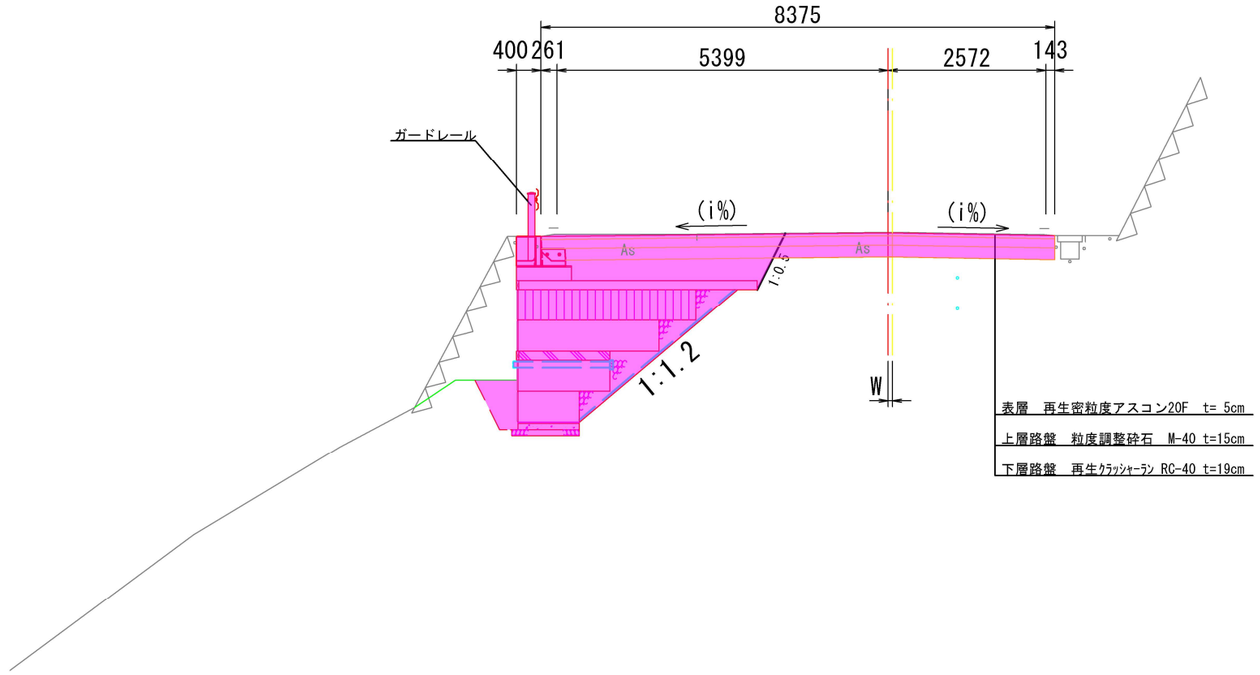
設計条件

設計速度	V=30km/h

設計 No.0

No.0

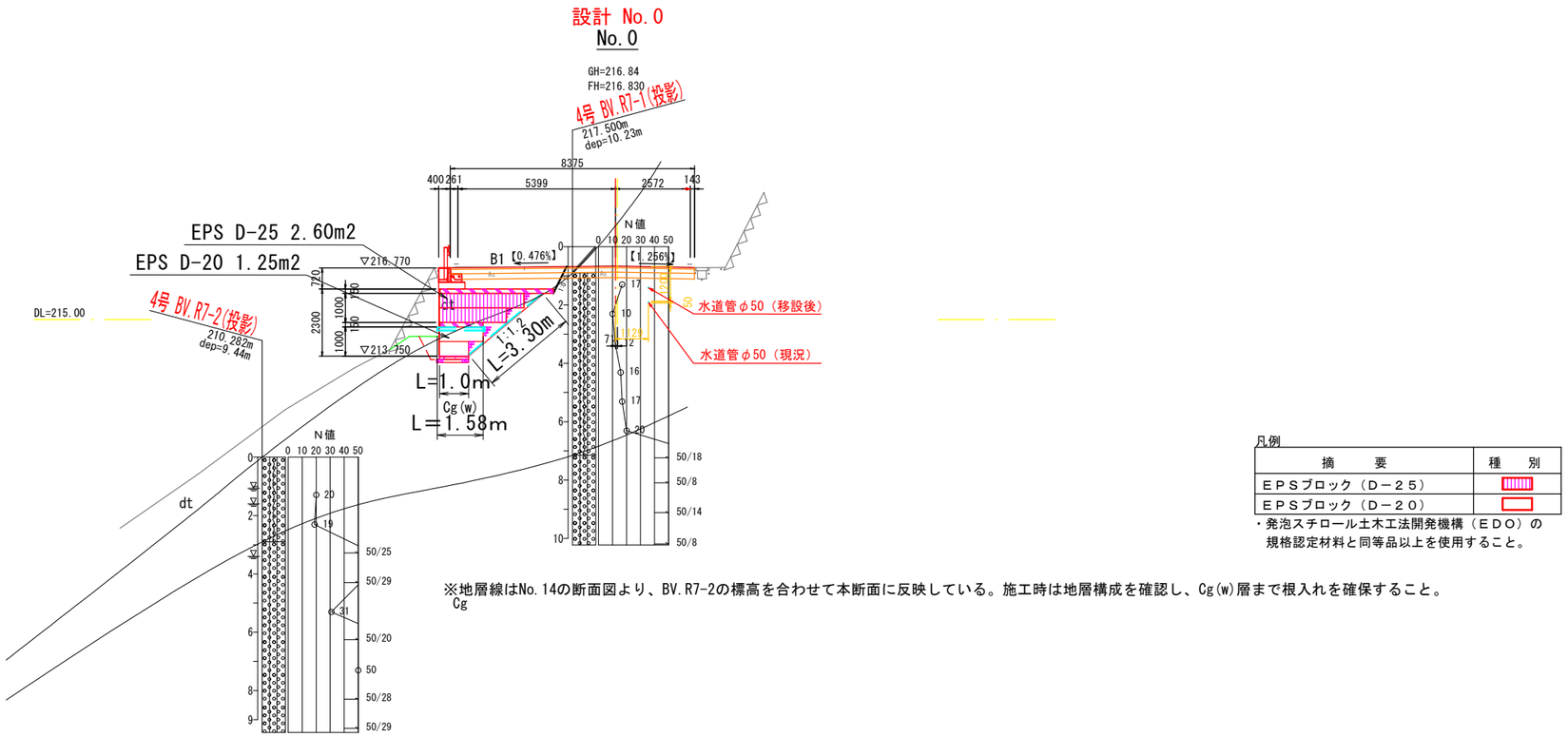
GH=216.84
FH=216.830



令和　8年度	
工 事 名	令和6年災　第6703号 市道舘小石線　道路災害復旧工事（その3）
道 路 名	市道舘小石線
箇　所	輪島市門前町西中尾　地内
図　名	標準横断図
縮　尺	S=1:50
図面番号	3 ／ 14 枚の内
輪　島　市	

横断図(1)

【市道舘小石線 4号箇所6】　S=1:100



凡例

摘　　要	種　別
ＥＰＳブロック（Ｄ－２５）	
ＥＰＳブロック（Ｄ－２０）	

・発泡スチロール土木工法開発機構（ＥＤＯ）の規格認定材料と同等品以上を使用すること。

※地層線はNo.14の断面図より、BV.R7-2の標高を合わせて本断面に反映している。施工時は地層構成を確認し、Cg(W)層まで根入れを確保すること。

※本横断図は、道路中心線に対して直角でない斜断面で作図しているため、図上の横断距離は道路中心線直角方向の幅員とは一致しない。なお、各横断図の側線位置については平面図を参照すること。
※（）書きの横断勾配は、斜断面の影響を考慮しない当該測点における道路中心線直角方向の計画横断勾配を示す。

※復旧擁壁範囲外は、道路端部で現況との段差が生じないよう横断勾配を調整しているため、【】書きと一致しない。施工時は現地高さを確認のうえ適切にすり付けること。

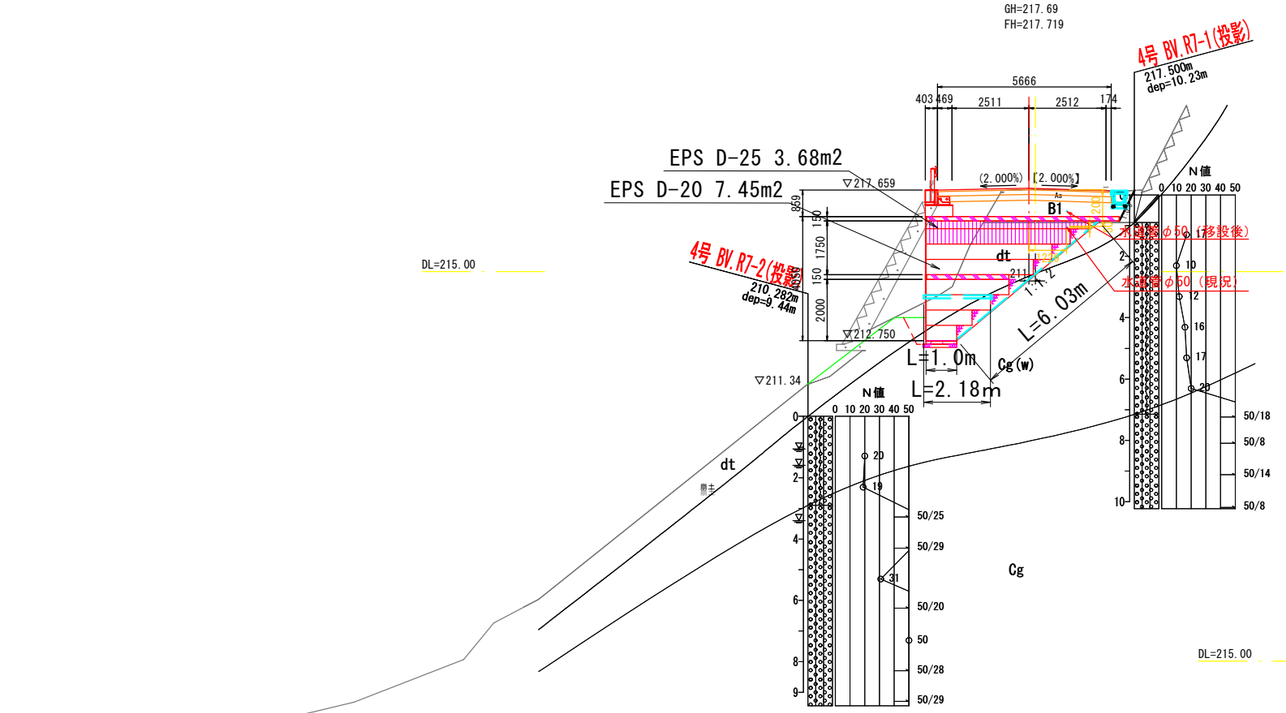
令和　8年度	
工事名	令和6年災　第6703号 市道舘小石線　道路災害復旧工事（その3）
道路名	市道舘小石線
箇所	輪島市門前町西中尾　地内
図名	横断図
縮尺	S=1:100
図面番号	4 / 14 枚の内
輪島市	

横断図(2)

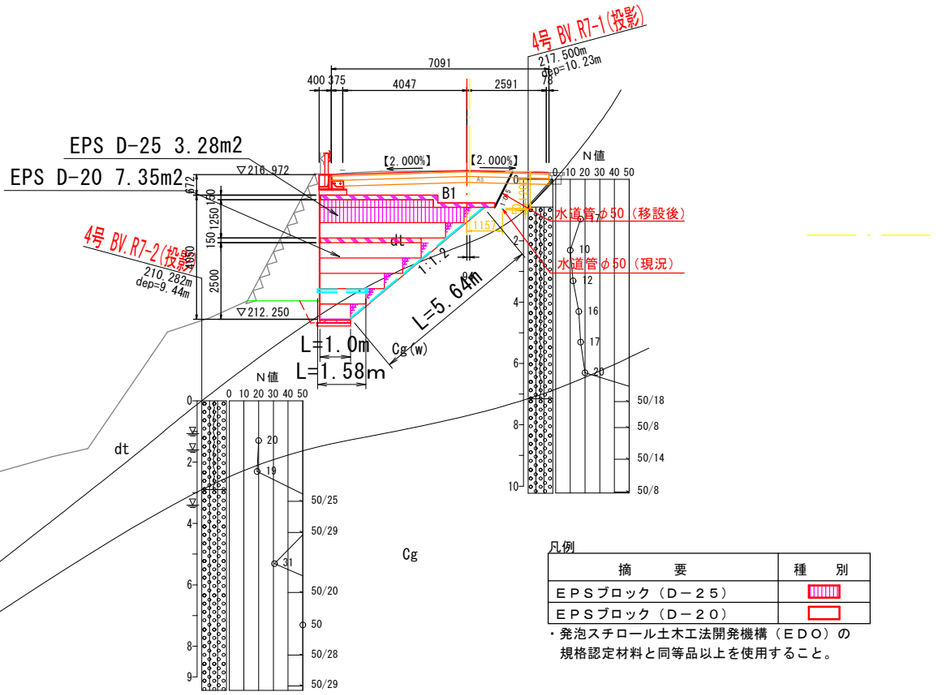
【市道舘小石線 4号箇所6】

S=1:100

設計 No.14.0
No.14



設計 No.4.5
No.4.5



凡例

摘　　要	種　別
ＥＰＳブロック（Ｄ－２５）	
ＥＰＳブロック（Ｄ－２０）	

・発泡スチロール土木工法開発機構（ＥＤＯ）の規格認定材料と同等品以上を使用すること。

※地層線はNo.14の断面図より、左側保護路肩位置および高さを基準に本断面に反映している。施工時は地層構成を確認し、Cg(w)層まで根入れを確保すること。

※本横断図は、道路中心線に対して直角でない斜断面で作図しているため、図上の横断距離は道路中心線直角方向の幅員とは一致しない。なお、各横断図の側線位置については平面図を参照すること。
※（）書きの横断勾配は、斜断面の影響を考慮しない当該測点における道路中心線直角方向の計画横断勾配を示す。

※復旧擁壁範囲外は、道路端部で現況との段差が生じないよう横断勾配を調整しているため、【】書きと一致しない。施工時は現地高さを確認のうえ適切にすり付けること。

令和　8年度	
工事名	令和6年災　第6703号 市道舘小石線　道路災害復旧工事（その3）
道路名	市道舘小石線
箇所	輪島市門前町西中尾　地内
図名	横断図(追加)
縮尺	S=1:100
図面番号	5 / 14 枚の内
輪島市	

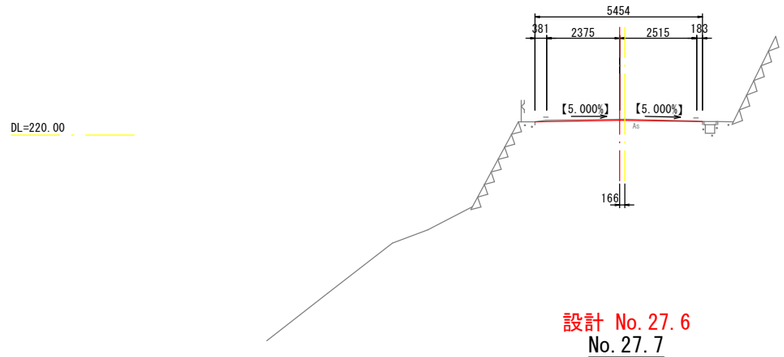
横断図(3)

【市道舘小石線 4号箇所6】

S=1:100

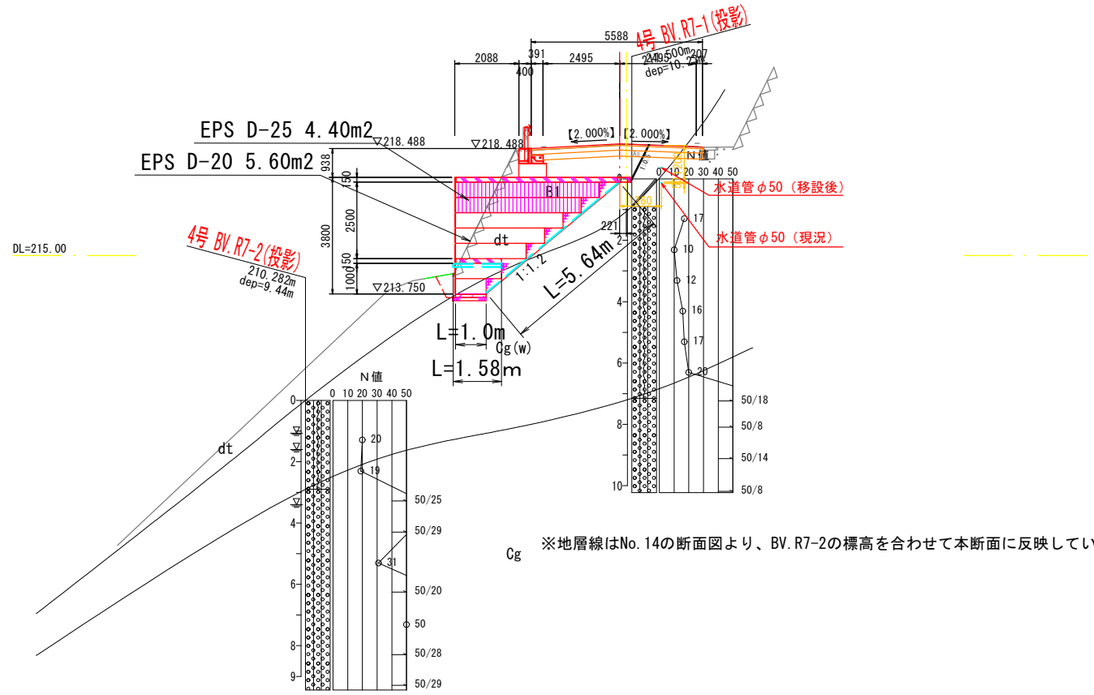
設計 No.55.2
No.55.4

GH=220.51
FH=220.483



設計 No.27.6
No.27.7

GH=218.64
FH=218.640



凡例

摘　　要	種　別
ＥＰＳブロック（Ｄ－２５）	
ＥＰＳブロック（Ｄ－２０）	

・発泡スチロール土木工法開発機構（ＥＤＯ）の規格認定材料と同等品以上を使用すること。

※地層線はNo.14の断面図より、BV.R7-2の標高を合わせて本断面に反映している。施工時は地層構成を確認し、Cg(w)層まで根入れを確保すること。

※本横断図は、道路中心線に対して直角でない斜断面で作図しているため、図上の横断距離は道路中心線直角方向の幅員とは一致しない。なお、各横断図の側線位置については平面図を参照すること。
※（）書きの横断勾配は、斜断面の影響を考慮しない当該測点における道路中心線直角方向の計画横断勾配を示す。

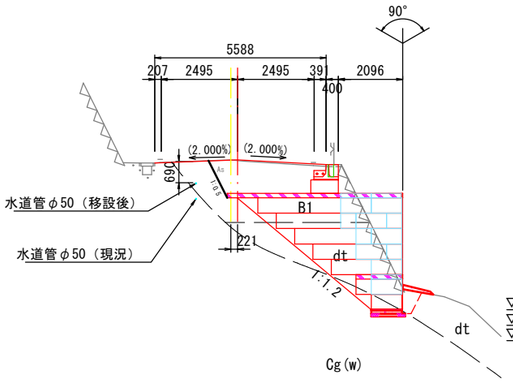
※復旧擁壁範囲外は、道路端部で現況との段差が生じないよう横断勾配を調整しているため、【】書きと一致しない。施工時は現地高さを確認のうえ適切にすり付けること。

令和　8年度	
工事名	令和6年災　第6703号 市道舘小石線　道路災害復旧工事（その3）
道路名	市道舘小石線
箇所	輪島市門前町西中尾　地内
図名	横断図
縮尺	S=1:100
図面番号	6 / 14 枚の内
輪島市	

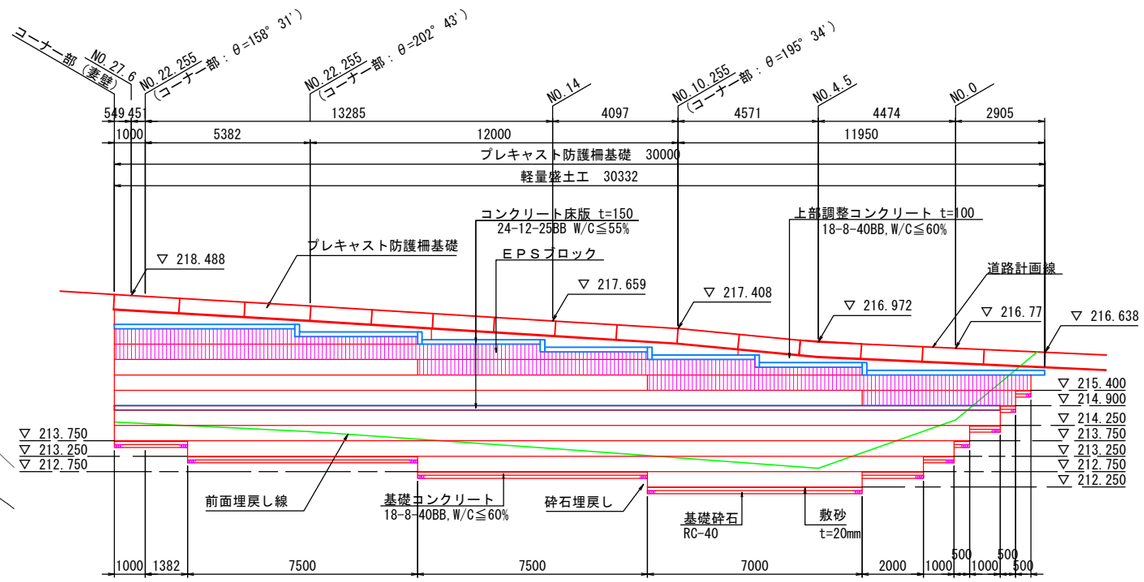
軽量盛土工一般図

【市道舘小石線 4号箇所6】

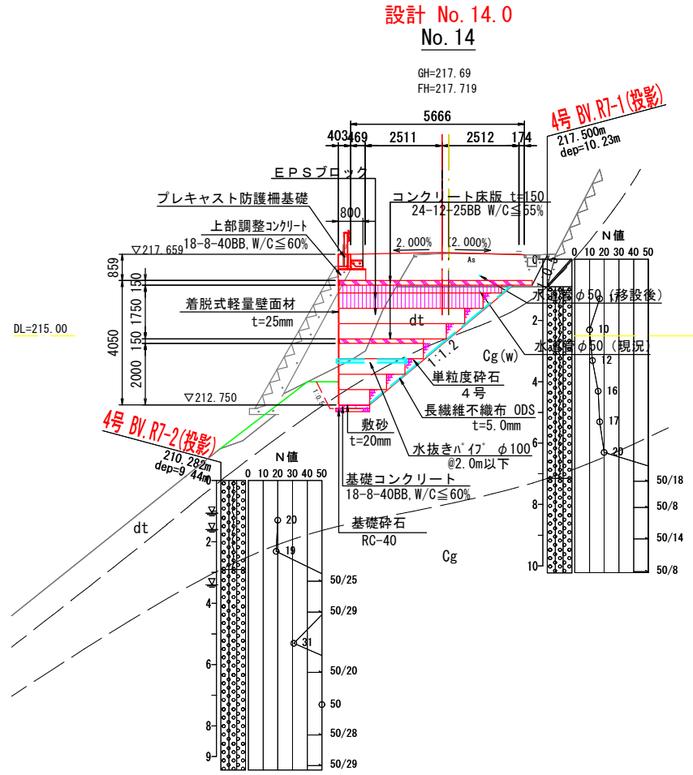
妻部正面展開図 S=1:100



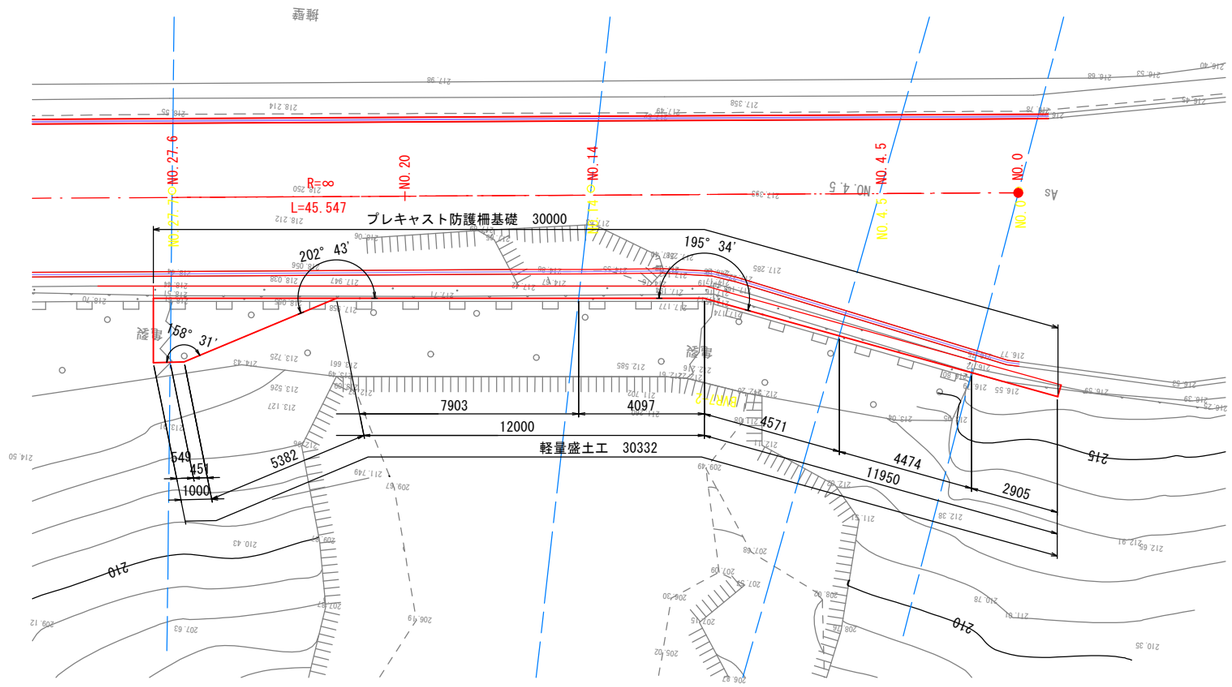
正面展開図 S=1:100



標準横断図 S=1:100



平 面 図 S=1:100



凡例

Cg 摘 要	種 別
ＥＰＳブロック（Ｄ－２５）	
ＥＰＳブロック（Ｄ－２０）	

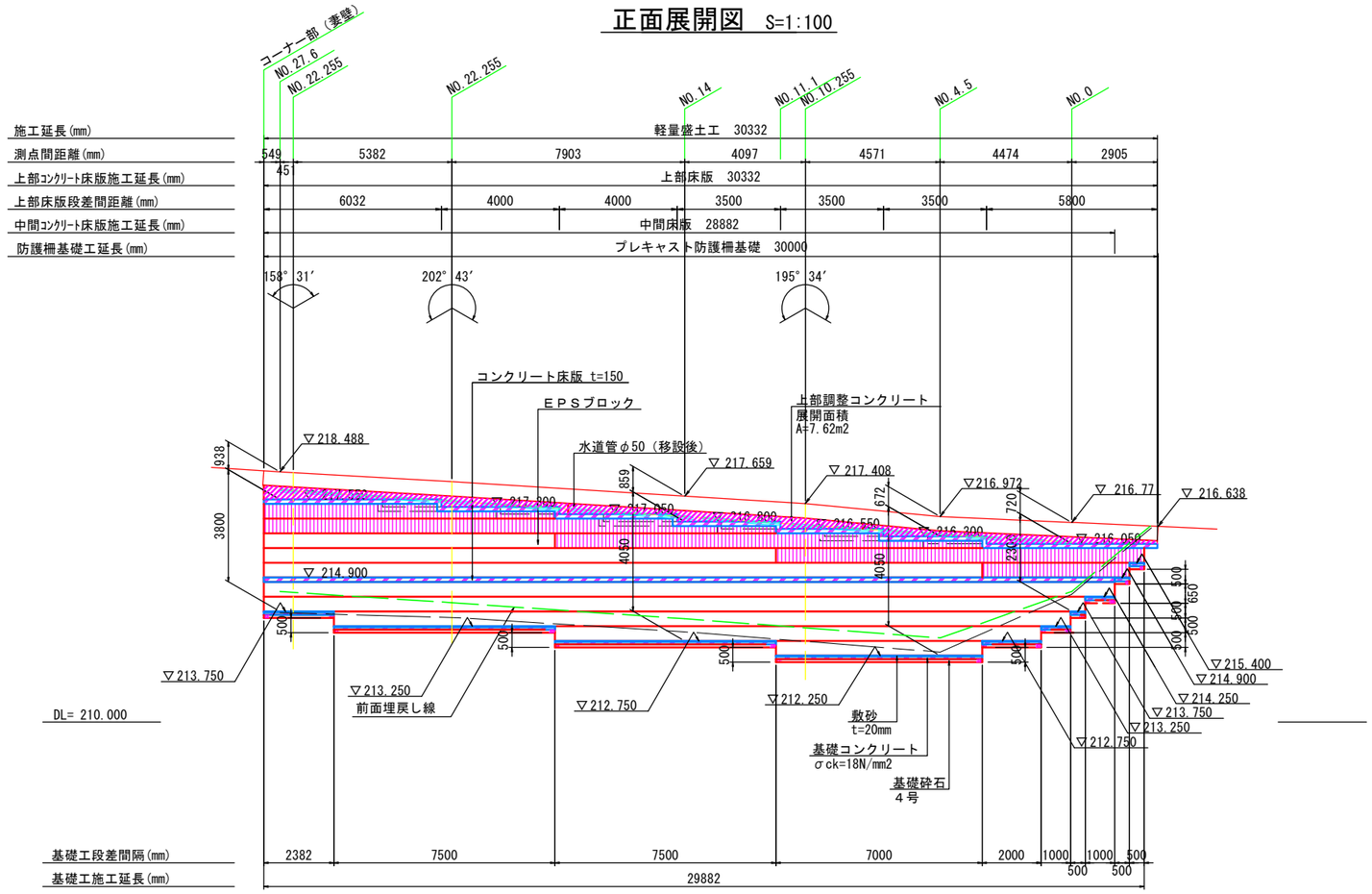
・発泡スチロール土木工法開発機構（ＥＤＯ）の規格認定材料と同等品以上を使用すること。

令和 8年度	
工事名	令和6年災 第6703号 市道舘小石線 道路災害復旧工事（その3）
道路名	市道舘小石線
箇所	輪島市門前町西中尾 地内
図名	軽量盛土工一般図
縮尺	図 示
図面番号	7 / 14 枚の内
輪島市	

軽量盛土工展開図

【市道舘小石線 4号箇所6】

正面展開図　S=1:100



注）・延長表示は、壁面材前面位置での延長を示す。
・根入れは、Df=500mm以上を条件とする。
・最上層のEPSブロック 750mm以上をD-25とする。

凡例

摘　　要	種　別
ＥＰＳブロック（Ｄ－２５）	
ＥＰＳブロック（Ｄ－２０）	

・発泡スチロール土木工法開発機構（ＥＤＯ）の規格認定材料と同等品以上を使用すること。

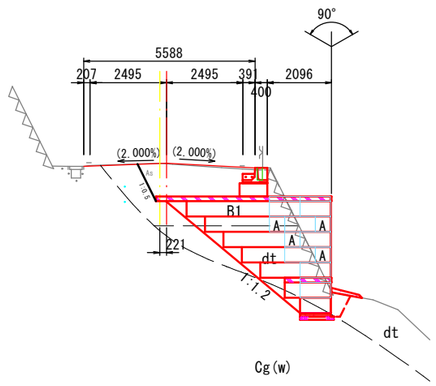
令和　8年度	
工 事 名	令和6年災　第6703号 市道舘小石線　道路災害復旧工事（その3）
道 路 名	市道舘小石線
箇　所	輪島市門前町西中尾　地内
図　名	軽量盛土工展開図
縮　尺	1:100
図面番号	8 / 14　枚の内
輪　島　市	

軽量盛土工壁面展開図

【市道舘小石線 4号箇所6】

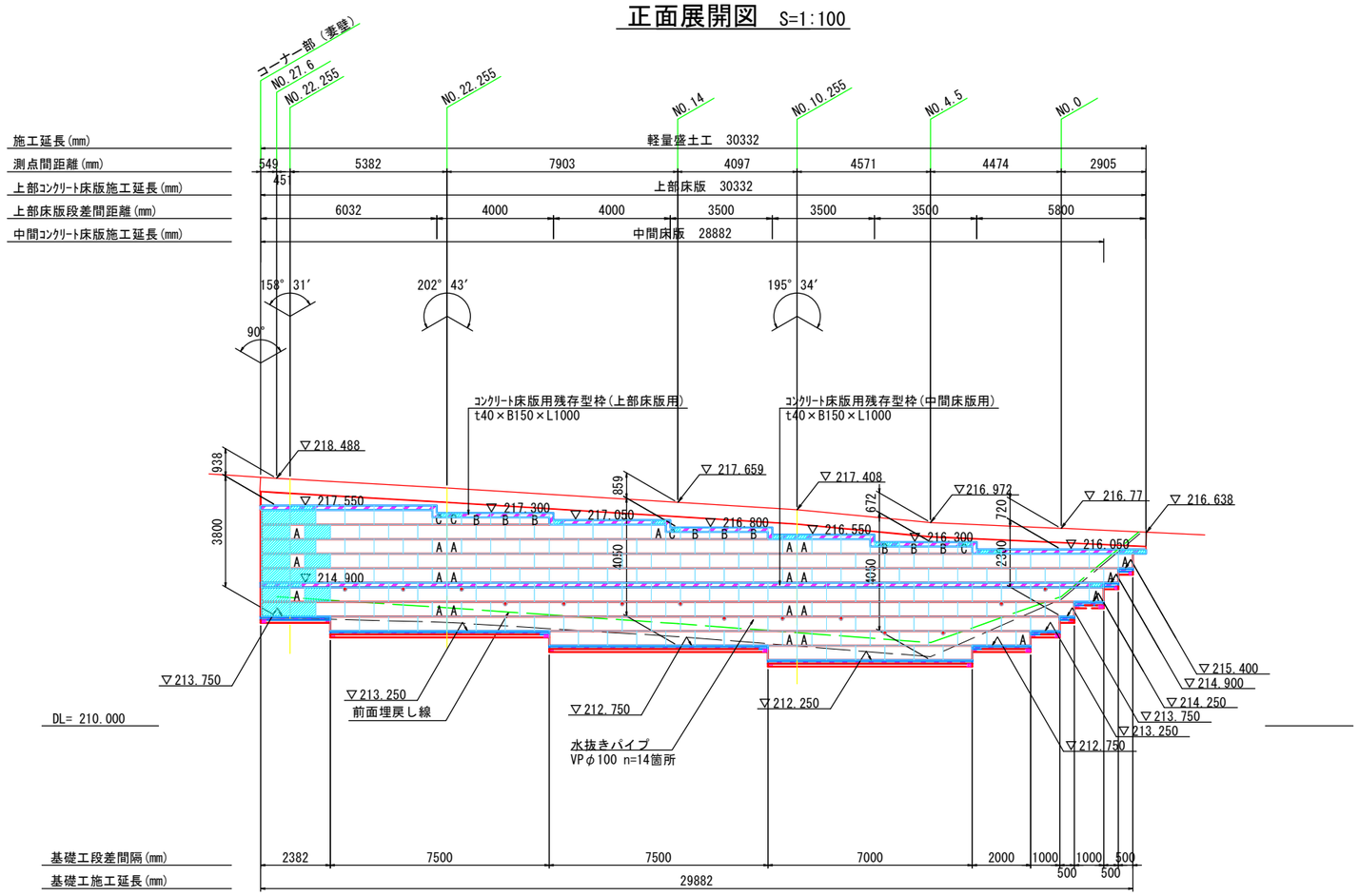
妻部正面展開図 S=1:100

コーナー部（妻壁）



DL= 210.000

正面展開図 S=1:100



DL= 210.000

注）・延長表示は、壁面材前面位置での延長を示す。

軽量盛土擁壁 壁面材 数量表

名 称	形状寸法	単 位	数 量	摘 要
着脱式軽量壁面材	480 × 980 × 25 (mm)	枚	202	QLW-P1
着脱式軽量壁面材 A	480 × 480 × 25 (mm)	枚	26	QLW-P2
着脱式軽量壁面材 B	230 × 980 × 25 (mm)	枚	9	QLW-P3
着脱式軽量壁面材 C	230 × 480 × 25 (mm)	枚	4	QLW-P4

※ 斜線部の壁面材は、現場にて延長調整加工。

ｺﾝｸﾘｰﾄ床版用残存型枠 数量表

名 称	形状寸法	単位	数量	摘 要
上部床版用	150 × 1000 × 40(mm)	枚	37	S1
上部床版段差用	150 × 400 × 40(mm)	枚	6	S2
中間床版用	150 × 1000 × 40(mm)	枚	31	S5

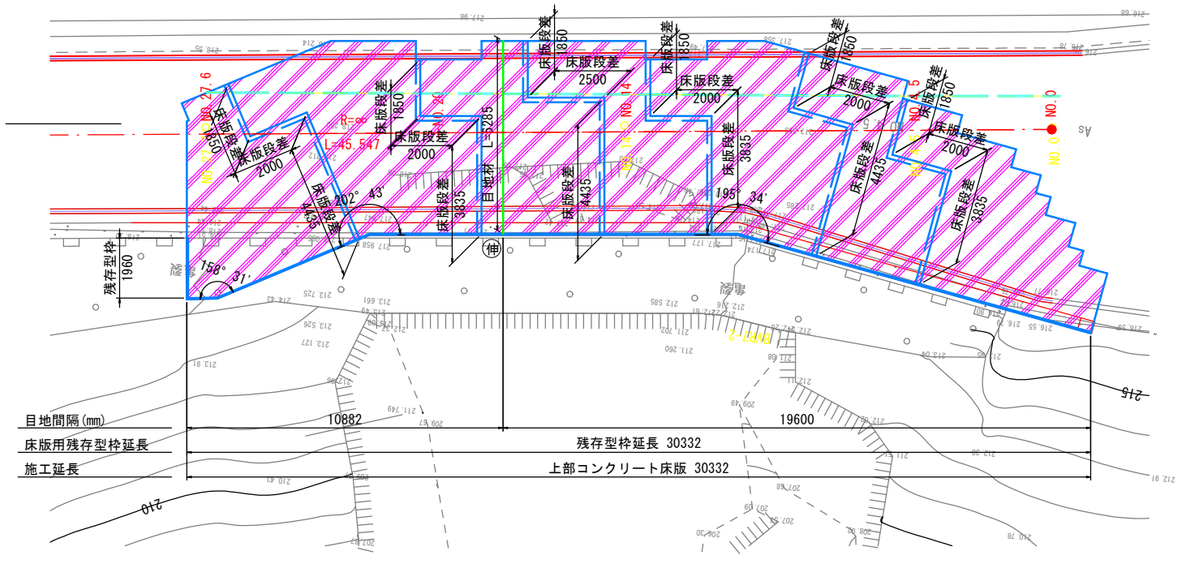
※ 斜線部の残存型枠は、現場にて延長調整加工。

令和 8年度	
工事名	令和6年災 第6703号 市道舘小石線 道路災害復旧工事（その3）
道路名	市道舘小石線
箇所	輪島市門前町西中尾 地内
図名	軽量盛土工壁面展開図
縮尺	1:100
図面番号	9 / 14 枚の内
輪島市	

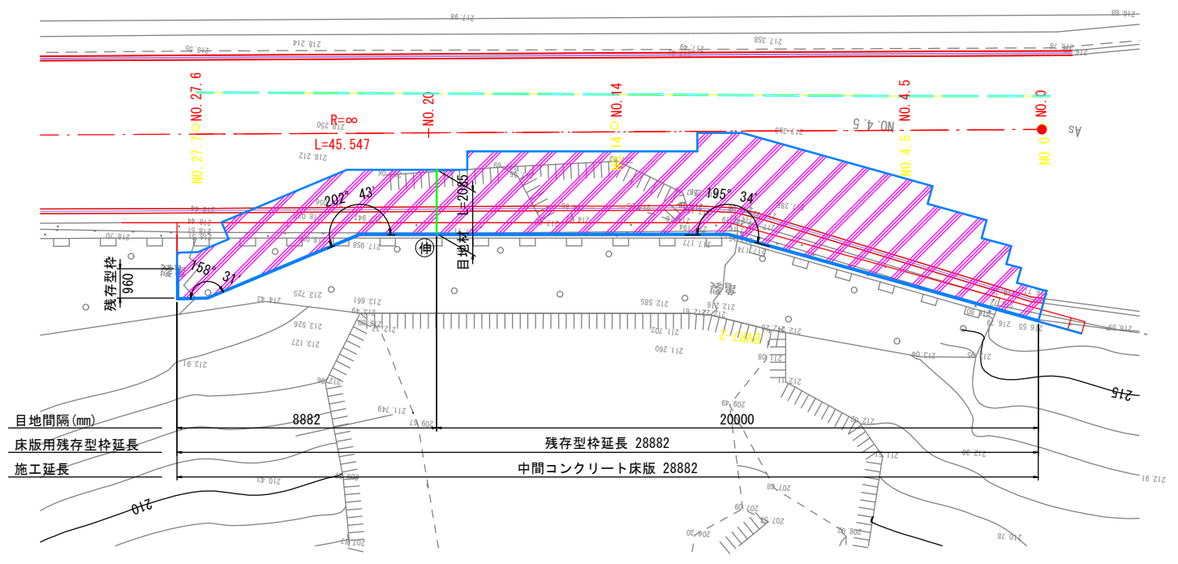
軽量盛土工コンクリート床版平面位置図

【市道舘小石線 4号箇所6】

上部コンクリート床版　S=1:100



中間コンクリート床版　S=1:100



上部コンクリート床版工　数量表

項　目	単位	項　目	摘　要
施工延長	m	30.332	
施工上面高	m	▽216.050(始点側)～▽217.550(終点側)	
施工厚	mm	150	
施工平面積	m2	177.98	
床版工段差箇所数			
h=250mm	箇所	6	合計施工幅　B = 48.410 m
目地材設置箇所数	箇所	1	合計施工幅　B = 6.285　m

床版段差部施工幅（始点側から）

	段差高 h(m)	施工幅 B(m)
1	0.250	7.685
2	0.250	8.285
3	0.250	7.685
4	0.250	8.785
5	0.250	7.685
6	0.250	8.285

目地材施工幅

	施工幅 B(m)	摘　要
1	6.285	

中間コンクリート床版工　数量表

項　目	単位	項　目	摘　要
施工延長	m	28.882	
施工上面高	m	▽214.900	
施工厚	mm	150	
施工平面積	m2	73.40	
目地材設置箇所数	箇所	1	合計施工幅　B = 2.085 m

目地材施工幅

	施工幅 B(m)	摘　要
1	2.085	

凡　例

コンクリート床版　t=150mm

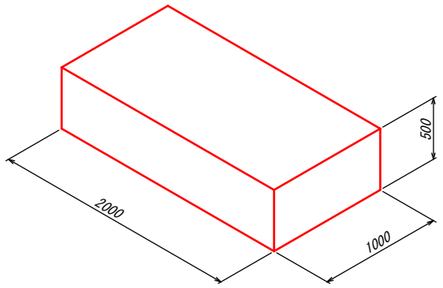
伸　コンクリート床版目地材 t=20mm

令和　8年度	
工事名	令和6年災　第6703号 市道舘小石線　道路災害復旧工事（その3）
道路名	市道舘小石線
箇所	輪島市門前町西中尾　地内
図名	軽量盛土工コンクリート床版平面位置図
縮尺	1:100
図面番号	10 / 14　枚の内
輪島市	

軽量盛土工 詳細図(1)

【市道舘小石線 4号箇所6】

EPSブロックの基本形状・物性規格　S=1:25



型内発泡法　ＥＰＳブロック

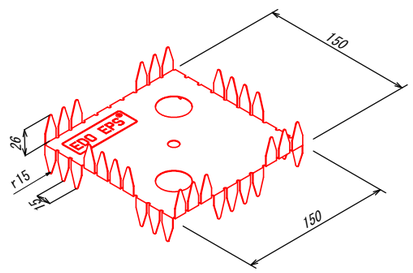
ＥＰＳブロック物性表

項　目	単 位	ＥＰＳブロック種別 型内発泡法 D-35	D-30	D-25	D-20	D-16	D-12	試験方法
単位体積重量	kN／m³	0.35 +0.030 −0.020	0.30 +0.030 −0.020	0.25 +0.020 −0.015	0.20 +0.020 −0.010	0.16 +0.020 −0.010	0.12 +0.020 −0.010	JIS K 7222
圧 縮 強 度	kN／m²	220以上	180以上	140以上	100以上	70以上	40以上	降伏ひずみ時もしくは10%ひずみ時
許容圧縮応力度	kN／m²	110	90	70	50	35	20	圧縮弾性領域
弾 性 係 数	kN／m²	11000	9000	7000	5000	3500	2000	

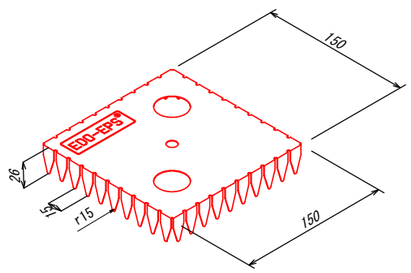
・発泡スチロール土木工法開発機構（ＥＤＯ）の規格認定材料と同等品以上を使用する
・［　　］は、本設計で使用するＥＰＳブロックを示す。

緊結金具詳細図

両 爪 型



片 爪 型



材料物性表

種　類	記　号	めっき付着量 両面等圧めっきの最小付着量（両面の合計 g／m²） 記　号	3点平均付着量	1点最小付着量	引張試験値 降伏点 N／mm²	引張強さ N／mm²
構造用	SGLC400相当	AZ150	150	130	295以上	400以上

・発泡スチロール土木工法開発機構（ＥＤＯ）が指定した金具と同等品以上を使用する

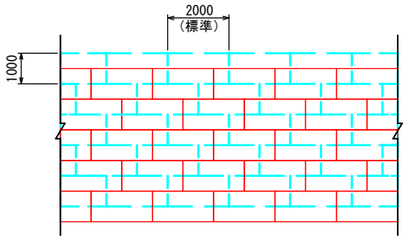
緊結金具の設置数

条　件	ブロックサイズ	個　数	摘　要
1m²あたり	－	1.15	
1m³あたり	2.0m×1.0m×0.5m	2.30	

・　レベル2地震動対応の場合は、上記個数の倍の金具を使用する事。
・　緊結金具の個数は、ロス分を含んだ数量とする。
・　切断加工したブロックには、1ブロックあたり1個ないし2個使用とする。
・　発泡スチロール土木工法開発機構（ＥＤＯ）が指定した金具と同等品以上を使用する事。

EPSブロック配置の参考例　S=1:100

平 面 図



：　上層ステージ

：　下層ステージ

特記事項

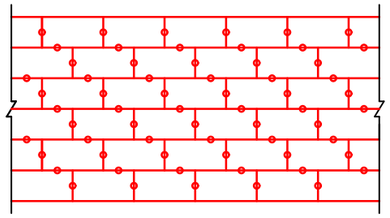
1．　本工事の軽量盛土工法
（１）　本工事における軽量盛土工は、契約図書に示す構造条件等に対し、「 EDO-EPS工法　設計・施工基準書（２０１９年５月　発泡スチロール土木工法開発機構）（以下、「基準書」と示す）」により決定している。
（２）　本工事に施工に際し、上記１．（１）によらず別の軽量盛土工法を採用しようとする場合は、事前に監督職員の承諾を得なければならない。

2．使用材料
（１）発泡スチロールブロックについては、「基準書」第３章　材料　３．２ EDO-EPSブロックに示される材料特性を満足するものとする。
（２）緊結金具については、地震時における軽量盛土体に作用する水平力に対し、発泡スチロールブロックの結合性能が金具のせん断抵抗力により確保できる機能を有するものとすること。

3．施工管理方法
本工事における軽量盛土工の施工管理については、「施工管理基準」の他、「基準書」第６章　施工によるものとる。

緊結金具の設置例　S=1:100

平 面 図



○　緊結金具

令和　8年度	
工 事 名	令和6年災　第6703号 市道舘小石線　道路災害復旧工事（その3）
道 路 名	市道舘小石線
箇　所	輪島市門前町西中尾　地内
図　名	軽量盛土工 詳細図(1)
縮　尺	図　示
図面番号	11 / 14　枚の内
輪　島　市	

軽量盛土工 詳細図(2)

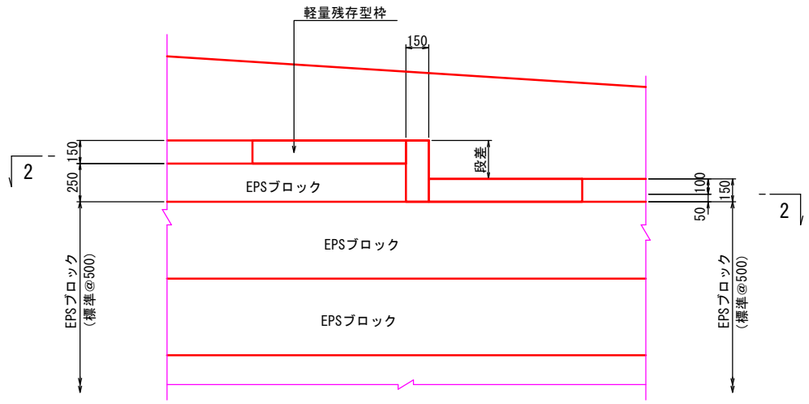
【市道舘小石線 4号箇所6】

コンクリート床版（t=150） S=1:20

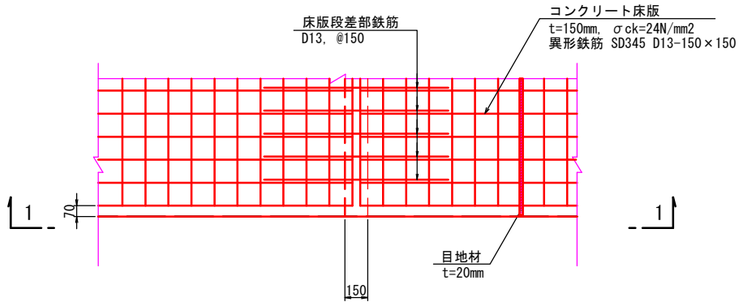
（上部コンクリート床版）

正 面 図

1 － 1



2 － 2

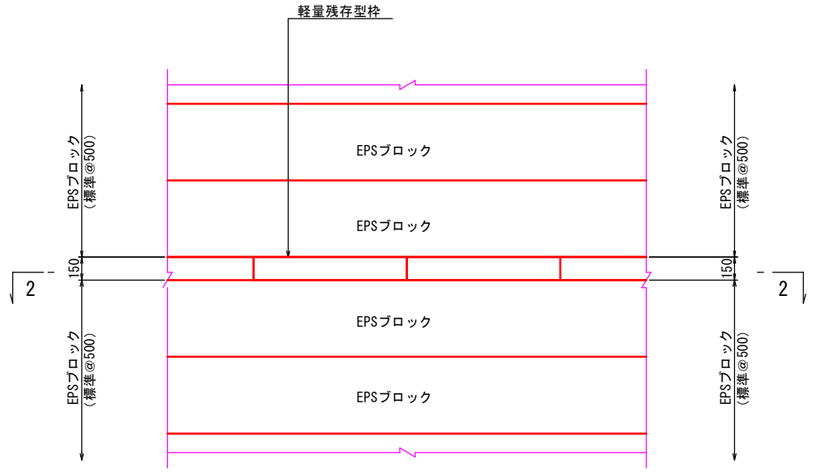


コンクリート床版（t=150） S=1:20

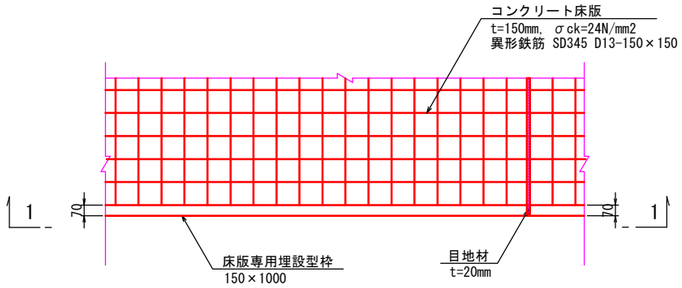
（中間コンクリート床版）

正 面 図

1 － 1

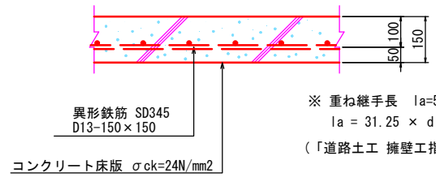


2 － 2



コンクリート床版工 S=1:10

床版 （t=150） （断面）

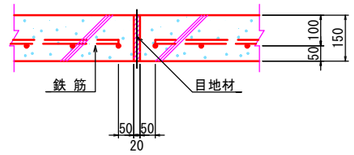


※ 重ね継手長 la=530以上

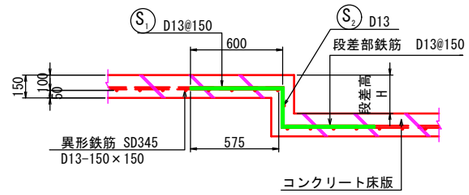
la = 31.25 × d × 1.3

（「道路土工 擁壁工指針(平成24年度版)」 P.155 参照 ）

伸縮目地詳細図

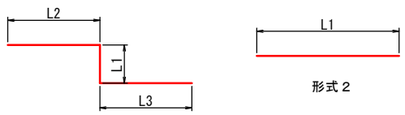


コンクリート床版段差部 S=1:20



段差部鉄筋加工表 （段差H=250）

段差奥行き10.0m当り



種 別	形 式	径	本 数 (本)	長 さ (mm)	L1 (mm)	L2 (mm)	L3 (mm)	L4 (mm)
S1	1	D13	67	1450	250	600	600	
S2	2	D13	1	10000	10000			

段差部鉄筋質量表

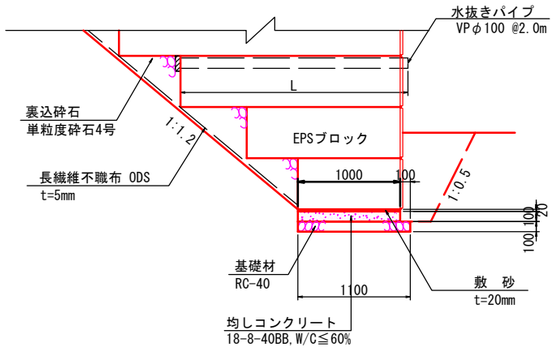
種 別	径	長 さ (mm)	本 数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質 量 (kg)	摘 要
S1	D13	1450	67	0.995	1.443	96.681	
S2	D13	10000	1	0.995	9.950	9.950	
総質量 D13 106.631 kg							

令和 8年度	
工 事 名	令和6年災 第6703号 市道舘小石線 道路災害復旧工事（その3）
道 路 名	市道舘小石線
箇 所	輪島市門前町西中尾 地内
図 名	軽量盛土工 詳細図(2)
縮 尺	図 示
図面番号	12 / 14 枚の内
輪 島 市	

軽量盛土工 詳細図(3)

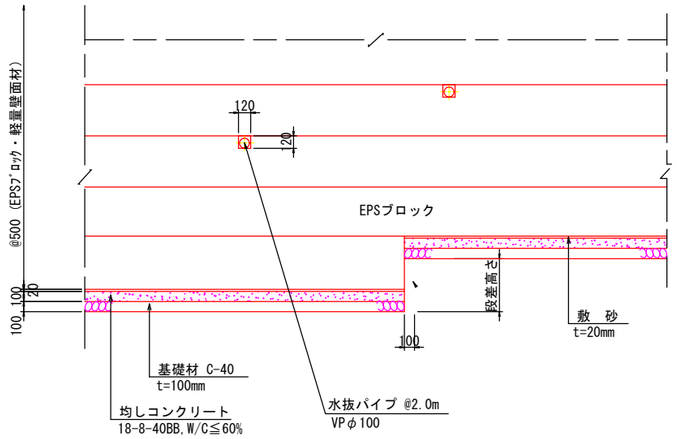
【市道舘小石線 4号箇所6】

基礎工断面図 S=1:30

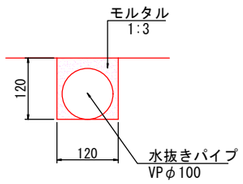


※ 水抜きパイプはEPS前面より75mm（パネル前面より50mm以上）突出させること。
水抜き箇所のパネルは現地にてカット加工すること。

基礎工正面図 S=1:30

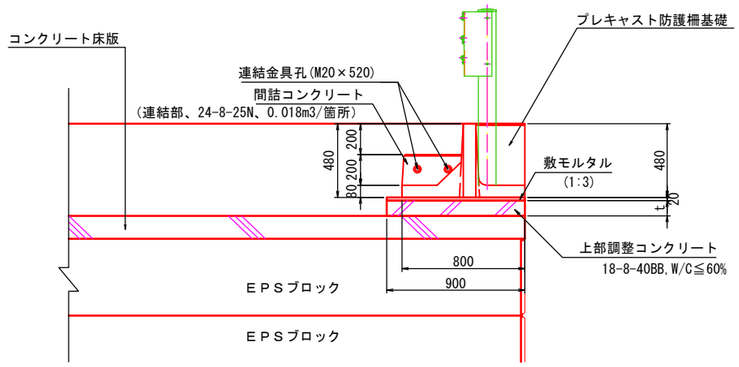


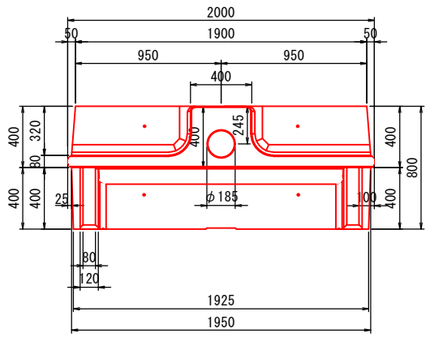
水抜きパイプ部



EPSに120mm×120mmの切欠きを行い水抜きパイプを設置する。
水抜きパイプとEPSの切欠き部との隙間はモルタルを充填する。

プレキャスト防護柵基礎詳細図 S=1:20





令和 8年度	
工事名	令和6年災 第6703号 市道舘小石線 道路災害復旧工事（その3）
道路名	市道舘小石線
箇所	輪島市門前町西中尾 地内
図名	軽量盛土工 詳細図(3)
縮尺	図示
図面番号	13 / 14 枚の内
輪島市	

軽量盛土工 詳細図(4)

【市道舘小石線 4号箇所6】

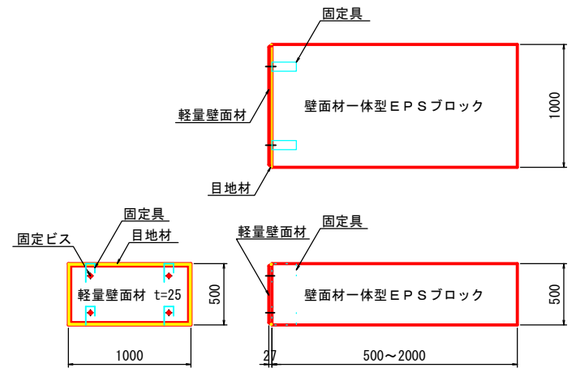
着脱式軽量壁面材詳細図

（ 軽量壁面材 t=25mm ）

EPSブロック基本形状寸法図　S=1:25

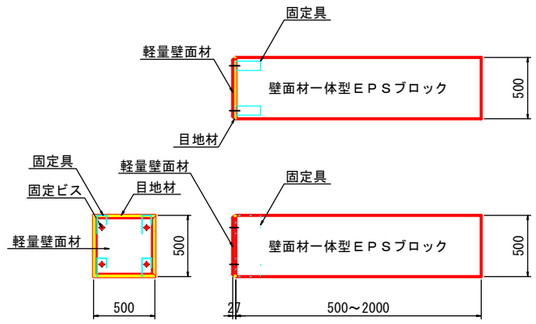
QLW-P1（壁面材付）

＜480×980×25＞



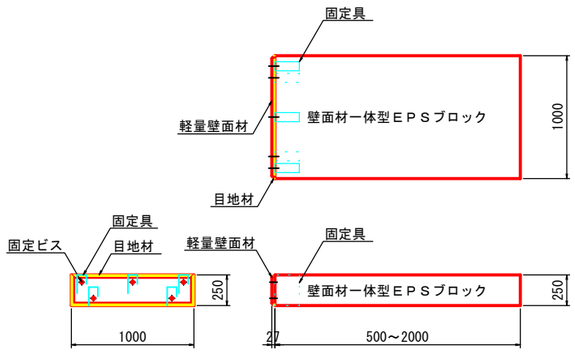
QLW-P2（壁面材付）

＜480×480×25＞



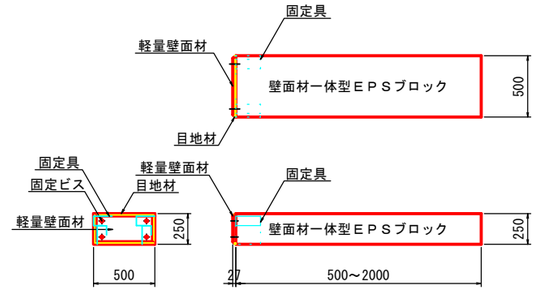
QLW-P3（壁面材付）

＜230×980×25＞

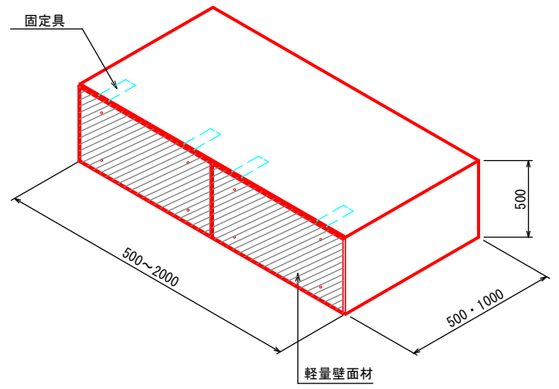


QLW-P4（壁面材付）

＜230×480×25＞



壁面材付ＥＰＳブロック基本形状俯瞰図　S=1:20



■着脱式軽量壁面材の加工について

傾斜部、延長調整等で、壁面材を現場合わせ切断加工しなければならない場合、
着脱式軽量壁面材は無筋コンクリート製のため、丸のこ・グラインダー等で簡単に切断加工可能。
ダイヤモンド刃で行うと切断もスムーズに行うことができる。

■壁面材の取付について

壁面材は長手方向（2000×500）の面だけでなく、短手方向（1000×500）にも取付が出来る。

令和　8年度	
工事名	令和6年災　第6703号 市道舘小石線　道路災害復旧工事（その3）
道路名	市道舘小石線
箇所	輪島市門前町西中尾　地内
図名	軽量盛土工 詳細図(4)
縮尺	図　示
図面番号	14 / 14　枚の内
輪島市	